

中央教育審議会大学分科会質向上・質保証
システム部会（第10回）における
主な意見（令和8年6月29日）

1. 「新たな評価」を踏まえた質保証の在り方について

（1）要正大学に対する対応

- 要正状態を理由に新たな学部設置を認めない場合、募集停止を予定している学部の課題が大学全体の改革の妨げとなる可能性がある。大学が学部再編を通じて改善を図ろうとする場合の配慮が必要ではないか。
- 要正となった大学に対する再評価や改善指導のプロセスが分かりにくい。再評価を何回まで行うのか、その後どのような措置を講じるのかを明確化すべきである。設置審を活用したシンプルな制度も考えられる。
- 改善報告を求めているにもかかわらず改善が進まない要因を分析する必要がある。勧告・命令だけでなく、改善のための支援や助言も必要ではないか。
- 認証評価後のフローの明確化は評価できるが、設置認可との接続関係も整理し、認証評価から設置認可へ戻る循環的な仕組みも検討すべきではないか。

（2）認証評価と設置認可との関係

- 認証評価の改善を議論する際には、設置認可の在り方も併せて検討する必要がある。定員未充足等の課題は認証評価だけではなく設置認可段階とも関係している。
- 新たな評価制度は国の関与が強くなる制度であり、重大な問題が確認された場合には、設置認可と同等の厳格な審査体制が必要ではないか。
- 認証評価は内部質保証システムが適切に機能しているかを確認する役割を担っており、設置認可制度との役割分担を整理する必要がある。
- 認証評価機関を複数維持する意義や多様性との関係について整理が必要である。

2. 新たなデータプラットフォームにおける情報公表について

（1）新たなデータプラットフォーム（Univ-map）

- 高校生や保護者が大学比較をしやすい検索・表示機能が必要である。また、競争的資金や特色ある事業の採択状況も表示してはどうか。
- 情報公表は実際の利用場面を想定して設計すべきである。高校生・保護者は進学先比較に利用し、AIを用いた比較・評価も行われる可能性があるため、その影響も考慮する必要がある。
- AIを活用した検索・比較機能やチャット形式のインターフェースを導入してはどうか。
- 公開データはAPI等を通じて利用できるようにし、利用者が自由に活用できる環境整備が必要

要である。

- 大学ポートレートの課題を検証した上で、新たなプラットフォームは従来と異なる理念の下で構築する必要がある。教育統計全体の設計との整合性も重要である。
- 海外で活用されている卒業後の所得情報のような指標についても検討の余地がある。また研究・IR活動のためデータを分析可能な形で提供することが望ましい。
- API 公開による民間活用を促進するとともに、大学に対する各種調査のワンストップ化を図るべきである。
- 高校生の利用実態を踏まえ、チャットボットの内製化や利用者参加型の設計を検討してはどうか。
- 学生調査結果や学生の成長実感などの学生視点の情報は利用者にとって有益である。

(2) 情報公表の目的

- 情報公表は進学支援サービスとしてだけでなく、高等教育の質向上・質保証を促進する仕組みとして位置付ける必要がある。高校生向けサービスと大学改革支援とでは目的が異なるため、制度の目的整理が必要である。